

阿蘇くまもと空港 新旅客ターミナルビル着工 ～熊本地震からの創造的復興のシンボル、2023年春開業予定～

熊本国際空港株式会社（所在：熊本県上益城郡益城町 代表取締役社長：新原昇平）は、阿蘇くまもと空港（以下「当空港」）において、本日1月15日に、新旅客ターミナルビルの起工式を執り行いましたので、お知らせ致します。なお、開業は2023年春を予定しています。

2016年熊本地震で被害を受けた当空港は、国土交通省航空局による「熊本空港特定運営事業等」（通称「熊本空港コンセッション」）において、熊本地震からの創造的復興のシンボルとして新たな旅客ターミナルビルを建設することが企図されており、今般、その新築工事に着手したものです。

新旅客ターミナルビルは、国内線・国際線一体型として整備し、それ以外にも地域にひらかれた商業施設、地域にひらかれた広場（※）などを整備する計画です。飛行機に搭乗されるお客様のみならず、地域の皆様にもご利用いただける施設を整備することで、交流人口の拡大に寄与し、空港周辺地域の活性化につなげてまいります。

※ 広場は、現国際線ターミナルビル跡地に整備するため、新旅客ターミナルビル開業後の着工となります。

【完成イメージ】



<国内初の滞在型ゲートラウンジ>

新旅客ターミナルビルでは、クリーンエリア（保安検査を受けた先のエリア）を大幅に拡張し、搭乗直前まで時間を気にせずにお買い物やお食事などをお楽しみいただける「滞在型ゲートラウンジ」を導入します。これにより、クリーンエリア内の店舗面積は、現在よりも大幅に拡大する予定です。

【滞在型ゲートラウンジイメージ】



<災害時にも安全・安心を提供>

災害時においても、全ての空港利用者が安全かつ安心して滞在できる機能を提供します。具体的には、2016年熊本地震のような繰り返し発生する地震にも耐える構造を備えるとともに、空港機能確保に向けた電源・通信・給排水等のライフラインの強化を図ります。

加えて、利用者の混雑検知システムなどの設備的対策を行い、新たな生活様式にも対応する施設計画とします。

<DX(デジタルトランスフォーメーション)技術の活用>

新旅客ターミナルビルでは、AIカメラを用いた人流解析や最新鋭機器の導入など、DX技術の活用によりチェックイン等の搭乗プロセスの迅速化・省力化・非接触化を実現します。これにより、ピーク時の最大待ち時間を10分に短縮し、「ファストトラベル」を提供します。

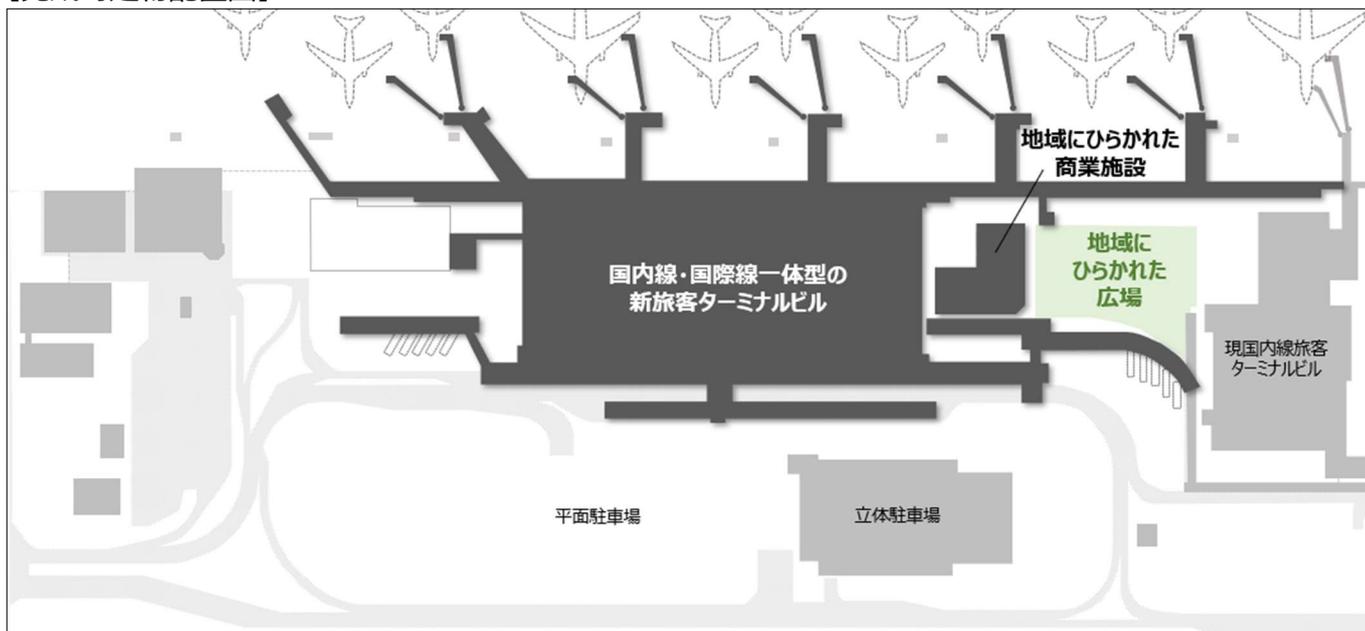
<地域にひらかれた空港へ>

当社は、空港を単なる交通拠点ではなく地域の交流拠点として捉え、あたかもひとつの「街」のような、地域にひらかれた空港にします。日本各地から、世界から、熊本を訪れた人々と地域の人々が交流する、全ての人々にひらかれた商業施設を設けるとともに、様々なイベントが開催可能な広場を整備します。

【滑走路側から見た新旅客ターミナルビルのイメージ】



【完成時建物配置図】



【新旅客ターミナルビル計画概要】

所在地	熊本県上益城郡益城町大字小谷1802番地の2
構造規模	鉄骨造 地上4階建て
延床面積	約37,500㎡
スケジュール	着工 2021年1月 開業 2023年春
施工会社	大成建設株式会社
設計会社	日建設計・梓設計 設計監理共同企業体
商業内装環境	株式会社ディ・ブレイン研究所

【お問い合わせ先】

熊本国際空港株式会社
総務・経理部
電話 096-232-2311